

グローバル・スタートアップ・キャンパス構想 フラッグシップ拠点整備に関する基本計画（概要）

1. フラッグシップ拠点の役割

- 国内と海外のイノベーション・エコシステムの結節点（ハブ）
- 国内外の優れた研究者、スタートアップ、事業会社、大学等、アクセラレータ、ベンチャー・キャピタル等の多様な主体がリアルとバーチャルに集積し、相互に連携・交流しながら、ディープテック分野における実用化研究開発及び事業化に関する活動等を実施

2. 敷地・施設概要

- 東京都渋谷区及び目黒区の国有地（敷地面積約26,000㎡）に整備
- 当該敷地を活用した全体的な拠点の構想を計画した上で、必要な活動を一刻も早く行う観点から必要となる規模（32,800㎡を上限）から整備を開始し、当該拠点での活動ニーズ等を踏まえアジャイルに拡張

3. 施設整備の方向性

世界トップ人材を魅了し“必要な形と機能”をもった世界最高水準の施設を目指す

- （1）ディープテック分野のあらゆるニーズに対応できる利便性や快適性
- （2）様々な人々との出会いや交流を促進し、創造性を誘発
- （3）常に最先端であり続ける柔軟性と成長・発展性
- （4）様々な才能が集える多様性と包摂性（インクルージョン）を体現
- （5）AI駆動型研究に対応し、リアルとバーチャルでアクセス可能
- （6）周辺と調和
- （7）サステナビリティや環境に配慮
- （8）持続的な拠点運営を可能

※ディープテックは経済安全保障と密接に関連することから、セキュリティに万全を期す

5. 施設整備・運営のスキーム

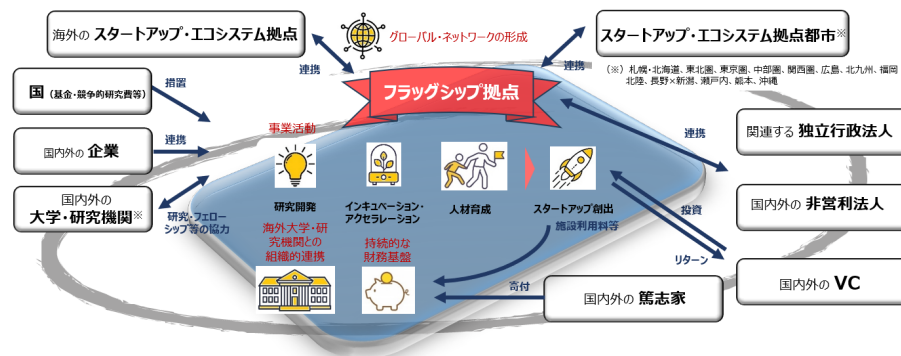
設計：国の発注に際し、設計事業者及び研究・イノベーション施設の運営に知見、ノウハウや実績を有する運営事業者によるチームでの実施。世界トップ人材を魅了する建築デザインも重視

建設：国が建設事業者等を公募により選定した上で、発注

運営：先端技術研究成果活用推進機構が当該施設を活用して、プログラムの実施/拠点の運営。その際、必要に応じて外部事業者に委託

※機構は設計・建設段階から関与することが望ましい

フラッグシップ拠点（イメージ）



4. フラッグシップ拠点に必要な機能

- （1）研究機能
（ウェットラボ、その他のラボ、作り込んだラボ、スケルトン、専有・共用ラボ、コファシリティ等）
- （2）オフィス機能
- （3）コミュニケーション機能
（共用部、イベントスペース、会議室、レストラン・カフェ・キッチン等）
- （4）施設管理機能

スキーム（イメージ）

